

令和5年度 第1回 高石市行政計画審議会 議事録

【開催日時】 令和5年8月22日（火） 午後2時から午後5時まで

【開催場所】 高石市役所 別館3階 会議室311・312

【出席委員】 日野委員（会長）、西村委員（副会長）、永山委員

【欠席委員】 玉置委員、山内委員

【傍聴者】 なし

【案 件】 （1）高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和4年度における効果検証について

【確認事項】 委員の変更に伴う委員の紹介を行った。
傍聴及び議事録の公開について確認した。
議事録署名人は、会長の指名により正副会長を除く出席委員の中から五十音順で指名することとし、本日の議事録署名人には永山委員が指名された。

【議事1】 高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和4年度における効果検証について
（会 長）本日は、令和5年度第1回の審議会になるが、昨年度に引き続き、各委員の意見をいただきながら進めたいと思うので、ご協力をお願いします。今回の審議会では、「第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の3年度目となる令和4年度の効果検証を行う。

まず、最初に本審議会の進め方について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）本市の総合戦略は各施策について、毎年度、PDCAサイクルによる検証を行うこととなっており、本審議会に報告し意見をいただくこととなっている。進め方としては、事務局から令和4年度に実施した施策内容、実績などを基本目標ごとに報告し、委員から意見をいただきたい。加えて、地方創生推進交付金である広域事業のKPIについても、審議いただきたい。

また、国では、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するため、令和4年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」へ改定され、地方においては、「策定された総合戦略に基づき、目指

すべき地方像を再構築し、地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂に努め、具体的な地方活性化の取組を推進する」とされた。K P I の見直しを含めた総合戦略の改訂については、大阪府の総合戦略の見直しに併せて検討したいと考えており、引き続き情報収集する。

(会 長) これまでと同様に基本目標ごとに事務局より説明を行い、各委員より意見をいただきつつ、審議するということによろしいか。

(はいの声あり)

各委員から異議もなかったので、事務局説明のように進めることとする。

総合戦略の改定については、大阪府の戦略の見直しを踏まえ、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略をどのように反映できるのかについて引き続き情報収集をお願いする。新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から「5類感染症」となったものの、昨年度までは影響があったと思われるので、今年度の評価の考え方について事務局から説明いただきたい。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症による令和4年度の評価への影響についての考え方を説明する。

新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発令等により、当戦略の事業においても、インバウンド観光客の減少、イベント等の延期・中止や事業が縮小となったものもある。

コロナによる影響については、中止した事業、縮小して実施したもの等があるが、評価方法については、コロナによる影響を受けている事業についても評価の対象とし、実施した事業についてはコロナの影響を考慮しつつ、K P I の数値を基に評価いただきたい。

(会 長) 以前はコロナの影響により評価できないとして扱ったものもあったが、今年度はコロナの影響があった事業においても評価することとする。法律上、感染症の位置付けは変わったが、今後、行政としてできるだけ市民の安全性を確保した上で事業を進めていっていただきたい。事務局の考え方について異議はあるか。

(異議無し)

コロナの影響があった事業においても、実施した事業についてはコロナの影響を考慮しながらK P I の数値を基に評価する。

それでは、基本目標(1)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日は、基本目標評価シートを中心に進める。各K P I のコロナによる影響については、基本目標ごとに説明する。

また、昨年度に意見をいただいた3項目については、基本目標評価シートに反映している。

① 同一事業内に複数のK P I が設定されている場合もあるので、1つのK P I に対

して個別に番号を振り分け、K P I ごとに個別評価する。

ただし、個別評価を勘案し、最終的に 1 事業としての総合的な評価をお願いする。

② 評価区分について、未達成ながらも達成率が 9 0 % 以上あれば概ね達成と併記する。

③ K P I 実績数値の変化については、対前年比の項目を追加する。

基本目標 1 「子どもを産み育てやすい環境を整える」の令和 4 年度の効果検証の結果について、説明させていただく。

この基本目標において、「妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実」をはじめ、5 項目の K P I、2 項目の数値目標を定めている。そのうち、K P I 番号 2 の「結婚につながる出会いの機会に関するイベント等への参加者数」については、コロナの影響により事業自体が未実施であるため実績値がない。

今回、検証いただくに K P I に関しては、5 項目の内 1 項目が達成、3 項目が未達成（内 2 つが概ね達成）で、1 項目が未実施等となっている。

（会 長）事務局の説明について質問はあるか。

（なし）

事務局が目安として 9 0 % は概ね達成と設定しているが、各委員の意見によっては評価が変わることもあるので、意見を踏まえて総合的に評価したい。基本目標ごとに各委員に意見をいただくが、まずは特に専門分野や造詣の深い委員を中心に意見をいただく。

それでは、最初に西村委員にお願いします。

（西村委員）K P I 番号 1 の事業については、利用者に対するアンケートによる満足度を設定しており、目標が 8 5 % に対して 8 2 % の数字となっている。具体的な内容は、妊娠中の電話相談支援や、出産後 1 年までの自宅訪問の回数増など、充実してきていると思う。また、保健センターが実施している産後ケアについても、宿泊型だけではなく、居宅訪問型も開始されたということで、よいことだと思う。疑問点としては、支援を利用できた人で、かつ、アンケートに答えてくれる人からの回答ということになるが、利用していない人の意見は反映されているのか。どのような形でアンケートをしているのか教えて欲しい。さらに、支援ニーズが顕在化していない人や、自ら声を上げられない方に対するアプローチにさらなる工夫が要すると思うが、そういう人は、アンケート回答にまでたどり着かないので、真に支援を必要とする人にどこまで情報が届いたかを把握する数値目標としては、十分でないように思う。

(事務局) 利用者に対するアンケートについては、4ヵ月児が個別に医療機関で受診する乳幼児健診の間診時に回答していただいたものである。乳幼児健診の間診票の質問として、アンケート項目を掲載しており、健診を受診するすべての方に回答していただいている。実際に市の施策を利用していただいている方、あるいはそうでない方も含めてアンケートにお答えいただいている。子育て世代包括支援センターは妊娠届出時、出生届時の専門職による面談や妊娠中期、後期の電話等を行い、産後の自宅訪問や産後ケア等について支援が必要な方に直接情報提供を行っている。また、すべての妊産婦・乳幼児を対象にポピュレーションアプローチを行っており、健診対象者は必ず同センターを利用しているため、アンケートは十分行き届いていると考える。

(西村委員) 4ヶ月健診の受診率は高く、間診票にアンケートを記載していれば回収率も高い。対象者には行き届いていることは承知した。100%を目指して、さらに工夫して進めて欲しい。

次にKPI番号3番4番に関する市外の利用者が高石市に住みやすそうと感じた割合については、達成度が低い。その理由として、どちらでもないという割合が高いとのことだが、確かに、ハグッドを利用しただけで、住みやすそうと感じるかどうかと聞かれても答えにくい部分はあるかと思う。ただ、積極的に高石は住みやすそうだというイメージが定着していないというのも事実なのだと思う。もう少し、具体的に、生活や子育てをしていくうえで、こういった点が優れている、便利だということから、住みやすそうだというイメージを持ってもらえるようにする必要があると思う。市外の人に向けて、遊びやグルメ、観光という観点から高石に来て下さいという交流人口増加へ向けたプロモーションと、住みやすいから移り住みたいというイメージを持ってもらうのは、違うアプローチが必要ではないかと思う。

(事務局) まずは、高石市という場所を広く知っていただけるよう努力をしているところである。インスタグラム等のSNSによる情報発信はすでに実施しており、現在はYouTubeを活用した市内の公園を巡るコンテンツを作成し、市の認知度を上げる施策を行っている。また、今年6月にはシーサイドフェスティバルを開催し、高石市内の方はもちろん、近隣の若い世代の方にも非常に好評をいただいている。市外の方向けの施策として、羽衣国際大学の学生とコラボし、遊び・グルメ・観光を網羅した「最高宝石」というパンフレットを作成している。こういった施策を通して高石市の認知度を上げ、子育て世帯の呼び込みについては努力をしており、皆様から何かアイデアをいただければ参考にさせていただき取り入れていきたいと思う。

(西村委員) 地味な高石の認知度を高めていっていただきたい。

(会長) ハグッドのアンケートだけでは住みやすいかの評価はしにくい。次回以降は、質問項目を「安心して子育てできそう」や「子育てするのにいい街である」にしてはど

うかという点が1つ。高石をより知ってもらうことや、魅力づくりはプロモーションのKPIで評価してはどうかという点が1点。この2点は課題としてもっていただきたい。毎回お話しするが、アンケートをするとき「どちらでもない」が多いので、これをどう扱うべきかということがある。今のままでは評価しにくいので、今回のような形で評価するのであれば、「どちらでもない」を除き、「良い」から「悪い」を引いて総数で割って割合を出す方がよいのではないか。また、ネガティブ評価はどんなアンケートでもあるので、「悪い」の評価を概ね10%や20%以下にする等の目標にするのもひとつだと思う。アンケート評価の仕方については見直しをお願いします。延べの利用者が52,000人となっているが、1人1回のみの回答でなく、再度利用された方の回答も含めた方法をとることも検討してはどうかと思う。現在の回答数では母数が少ないので、評価は難しい。アンケートの仕方と評価の考え方の2点については次回以降の検討課題としてお願いします。

引き続き、西村委員よりお願いします。

(西村委員) KPI番号5の放課後児童について、待機児童はゼロで引き続き達成率は100%で大変良いことだと思う。利用する児童数は、令和4年度も40人程度増えている。令和4年度のクラブ開設数の20のままで、定員は大丈夫なのか。また、保育の質向上という観点から、指導員の人数も増えているのか。

(会 長) いただいた質問に対して、担当課から何かあるか。

(事務局) 令和4年度のクラブ開設数は前年度に引き続き20となっており、入会児童数は増加しているが定員内となっている。指導員の人数については、開設クラブ数に応じて配置(各4名配置)するため、増設がない場合、変更はない。支援の単位ごとに2人以上の基準のところ、常時3名体制としている。

(西村委員) 1クラスの定員は何人か。

(事務局) 1支援単位では55人となっている。

(西村委員) 55人に対して3人体制ということで承知した。引き続き利用者が増加することが予想されるので、待機児童がでないように引き続き対応をお願いします。

(会 長) 学童保育と児童クラブの違いは何か。

(事務局) 学校ごとで呼び方は違うが、実態は同じで、全部で20クラブある。

(会 長) 子育て世帯が増えると、クラブ数が増えると思う。それは子育て世帯の転入が増えていると考えるのが普通だが、転入が減っている中、学童利用数が増加しているのは、共働き世帯が増加しているとも読みとれる。それにより市内の就業数が上がるという因果関係を事務局には調べておいてもらいたい。何を持って何を評価するかということに関わるので、併せて考える必要があるかと思う。無理な注文かもしれないが、検討はしていただきたい。

(会 長) 他の委員から基本目標1について、意見はないか。

(なしの声あり)

(会 長) 前年度もそうだが、その年度のK P Iに基づいた評価というのはもちろん、委員からの課題等は次年度以降の変更できる時期には考慮していただき、修正や変更をお願いしているところである。各委員からの意見については、今回の評価とは別に次期の総合戦略に同じような項目を設定するならば、その際には、検討していただき、必要に応じて反映していただきたい。

(永山委員) 基本目標が子どもを産み育てやすい環境を整えるということなので、目標に沿ってK P Iの報告がでてきているが、国の子育てや少子化に対する対策は、具体的ではなく、今回出してもらっている項目も基本目標に沿った事業なのかということであれば、どれもいい事業だが、この事業で本当に子どもを産み育てやすい環境を整えることができるのかということをもう一度考えていただきたい。このような場での委員からの意見に対し、本来は修正できるタイミングで検討し、修正をしていくべきなのではないかと思う。

(会 長) 具体的な意見等はあるか。

(永山委員) たとえば国でも1人子どもを産めば1000万円などの意見もあるかと思う。どの地方公共団体でも同じような事業を行っているので、結果的に自分にとってどんな利益があるかに限ると思う。

(会 長) 基本的にはどこも人口が減少しているので、数値目標である、子育て世代20歳から39歳までの転入を増やす、転出を減らすとともに、さらに60歳以上の転入を増やすということは難しいと思う。高石の街で生活するときに、どのライフステージがふさわしいのか考えて、ターゲット層を絞った方がよいという意見は以前より伝えている。そのなかで、子育てが高石の売りでもあるが、高石市の魅力だけではなかなか難しいので、子育てしやすく、学童の待機児童がゼロなので共働きしやすい環境が整っているということをアピールすれば、選択の余地が出てくるのではないか。また近居同居の固定資産税免除もあるという総合的なメリットや因果関係を明確にし、基本目標や個別目標がどう繋がっているかを考えることが有効だと思う。令和4年度の評価としては、子育てしやすい、産み育てやすいということであれば、乳幼児からのフォローアップやハグッドもある。小学校にあがれば児童クラブも充実しているという環境が整っているということは、評価できる。基本目標1のK P Iにおいて、乳幼児の次に小学生の学童保育まで飛んでしまっているため、保育所の待機児童数など乳幼児と小学生の間の期間のK P Iがあってもよいと思う。すでに達成している項目もあるかもしれないが、その事実についても子育て支援の評価の指標となり得るので、検討いただきたい。

ハグッドについては、アンケートの取り方や数の評価の仕方について、結果未達成になっているが、「どちらでもない」を除き、「良い」から「悪い」を引いて総数

で割って1以上であればいいのではないかと思います。今回の結果も1以上になるのではないかと。

評価方法を変えれば、達成となる可能性もあるので、全体としては概ね達成として評価してよいと思うが、各委員はいかがか。

(異議無し)

(会 長) アンケート結果の表し方について、先ほど伝えたのは一つの方法なので、いくつかの例で数値を出していただき、裏付けがとれれば、達成という評価でよいと思う。続いて、基本目標(2)地域が稼ぎ、働きやすい環境を整えるについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 基本目標2「地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える」の令和4年度の効果検証について、説明させていただく。

この目標においては、「専門性を身につけるための資格取得支援」をはじめ、13項目のKPIと2項目の数値目標について定めている。そのうち、国の地方創生推進交付金の交付を受けた施策として、「本事業及び波及効果による既存ストックのまちづくり活用件数」、「事業を通じた就職者数」、「創業件数」、「リノベーションスクール等の勉強会や地域創生人材支援講座等の参加者数」の4つのKPIを定めている。

今回、検証いただくKPIに関しては、13項目の内10項目が目標を達成、3項目が未達成となっている。

(会 長) この基本目標2については、地方創生推進交付金の交付を受けた施策も含まれているため、その点も含めて、各委員から意見をいただきたい。山内委員が本日不在だが、事前に意見はいただいているか。

(事務局) 山内委員からいただいている意見を紹介する。

3点あるため、1点ずつ紹介する。

1点目は、コロナ禍により、市内飲食店等の状況も二転三転して、現状移り変わりが多くなっている。行政でもリノベーション等の事業促進を図っていただいている。市内を見渡し、閉鎖された状態の空き店舗や空き家が多く見受けられ、何とか飲食店が事業展開しやすい環境政策、支援等について検討をお願いします。

2点目は、現在、企業では新天地候補を検討しているという情報も寄せられている。高石市は唯一住宅系と工業系が区分され、企業立地としては、交通アクセスも含め、最適な立地である。臨海部での空地(公共・民間も含め)の早々の土地利用方向について、調整をしていただきたい。また、既存企業における有効な土地利用を図れる緑地率の検討をお願いします。

3点目は、事業所での就労環境が今後も重要視される社会情勢であるが、当所でも経営者への健康経営支援やセミナー等も実施しているが、中小事業所での経営状況からは、BCPも含めなかなか取り組み件数が増えないのが現状である。行政との連携で、課題解消できる政策を市域全体で取り入れていただけるような展開をお願いしたい。

以上3点となる。

(会 長) ただいま、いただいた質問に対して、担当課から何かあるか。

(事務局) 1点目については、現在、旧保健センターを改修し、1区画をチャレンジショップとして活用いただき、本店舗へのステップアップをしていただくための取り組みをしている。

(会 長) 旧保健センターの改修は終わっているのか。

(事務局) 1階の一部のみ改修が終了しており、その他および2階については未改修となっている。

(会 長) オフィスだけでなくと記載があるが、メインはオフィスになるのか。

(事務局) 現在、方向性を踏まえ検討中となっている。

(会 長) コミュニティスペースとして整備をしていってほしいが、オフィスと融合はできるのか。それぞれがプラスに反応する場合もあれば、マイナスに反応する場合もある。メインが決まれば、他のところは埋める形で、別の活動ができるような空間を整備することも一つだと思う。その他の改修の方向性は今後検討ということによいか。

(事務局) 現在、一店舗をチャレンジショップとして活用いただいているところであり、その他については今後検討する。

(会 長) この事業に対し、他の委員からご意見はないか。

(永山委員) 意見だけだが、現在、ケーキ屋とチャレンジショップだけであって、メインをケーキ屋と言わざるをえない状況だと思う。地域のコミュニティの場所として使用していた側の意見とすれば、現状ではまったく満足していない。また2階については、当初聞いていた話から二転三転しているので、目標に向かって進んでいけるのかをよく考えていただきたい。

(会 長) もともと事業として、地域資源のリノベーションということになっているのに対して、今は旧保健センターの事だけだが、個別評価シートに記載の市内の空き家やスペースについての事業は含まれているのか。

(事務局) 含まれている。

(会 長) K P I 番号8-1と8-2について事業名が同じなのでわかりにくい、補足説明をお願いします。

(事務局) K P I 番号8-1については、泉北就職情報フェア、合同就職面接会、たかいし就職フェスタを開催し、面接会において参加者数と参加者の中から就職に繋がった件

数を記載している。

(会 長) 中身はわかるが、評価シートを作成する際に、事業名とK P I 指標が同じなので、8－1は先ほど説明いただいた件数ということで、8－2はリノベーションスクールという理解でいいか。事業名が同じなので、たとえば8－1にカッコ書きで〇〇事業などの記載をしていただければわかりやすい。中身を見ればわかるが、事業をK P I で評価するということになっているので、事業名とK P I が同じなのに中身が違くと誤解を招くので、できれば事業名の補足をいただきたいがよろしいか。

(事務局) K P I 番号8－1については、就労支援事業、8－2はリノベーションスクールの開催を通じた起業・創業者の件数ということで、一つの事業に複数のK P I がぶら下がっている状況である。

(会 長) 1つの事業名の中に2つの事業がある。それにそれぞれのK P I が存在する。1つの事業に2つのK P I があるというのは結果論であって、1つの事業に2つの中身の事業の内訳があり、それぞれにK P I があるということなので、大きい事業名があれば、それぞれの事業の内訳の補足を付け加えていただきたい。ちなみに8－2が基本目標シートの2ページではなく4ページにあるのは、交付金にかかるK P I という理解でよいか。

別立てになっていると評価がしにくいので、交付金にかかる項目は重複しても良いので、1つの基本目標の項目として記載していただきたい。続いて、2点目のK P I 番号10、11に対していただいた質問について、担当課から何かあるか。

(事務局) 2点目は、現在、緑地率について、バイエリア協議会を通じ臨海企業とヒアリングを行っている。ENEOS跡地の活用も検討されていると聞いているので、カーボンニュートラルとのバランスを考慮しながら、今年度末を目途に検討を進めていきたいと考えている。

(会 長) いまの回答に対して、各委員から意見はないか。

(意見無し)

(会 長) 続いて、3点目のK P I 番号15に対していただいた質問について、担当課から何かあるか。

(事務局) 健康経営に関心のある事業者がある場合は、健康経営に関する支援を行っている企業・団体を紹介することが可能であり、申し出てほしい。また、健康経営の一環として、健幸ポイントに企業が参加いただくことは可能であり、興味がある場合は合わせて申し出てほしい。

(会 長) 要望があればという話だが、そういうところに対して支援等はないのか。

(事務局) 要望がない限り、こちらからの支援は現在行っていない。

(会 長) 要望があれば相談に乗るということに関してなにか広報はしているのか。

(事務局) 健幸のまちづくり協議会という会員に対し、定期的にメールマガジンを発行し、健

幸経営に関する情報を提供している。

(会 長) こういった協議会を通じて要望して欲しいということで理解した。いまの回答に対して、各委員から意見はないか。

(意見無し)

(会 長) 基本目標 2 について、ほかに意見はないか。

(西村委員) K P I 番号 1 2－2 で、これまでリノベーションスクールを開催されており、令和 4 年度は開催予定だったが、事業方針の変更により開催を見送ったということだが、事業方針の変更とは具体的にどういったことか。

(事務局) リノベーションスクールについては、第 1 回開催時より第 2 回開催時の方がコロナの影響もあるが、参加者数が予定より少なかった。理由としては高石市内在住のリノベーションまちづくりに興味を示す方が一定開拓されたと想定したため、令和 4 年度の第 3 回は開催を見送った。今後については、旧保健センターを活用しながらリノベーションまちづくりを検討している。

(西村委員) K P I 番号 1 3 はリノベーションスクール等の勉強会や、地域創生人材支援講座等の参加者数となっており、K P I 番号 1 2 はそれに基づく創業者数となっているが、来年度もリノベーションスクールを開催しないとこの数値目標はどうなるのか。

(事務局) K P I 番号 1 2 の創業者数については、旧保健センターを活用し、継続していきたいと考えているが、K P I 番号 1 3 については修正していきたいと考えている。

(西村委員) 創業者数については、今までのノウハウを活かして継続していくということで理解した。

(会 長) K P I 番号 1 3 については、今後開催しないということは、令和 5 年度、6 年度の目標値はなく、事業自体が中止という理解でよいか。

(事務局) 会長のおっしゃるとおり。

(会 長) K P I 番号 1 3 に係る事業については、令和 5 年度以降中止ということで理解した。K P I 番号 1 3 については、令和 4 年度までは資料として残るので、令和 5 年度、令和 6 年度の目標値と実績値はバーの表記等としておく方が良い。また、K P I 番号 1 0 と 1 1 については、累積の方がよいと思うが、目標設定は各年度という理解で良いか。

(事務局) 会長のおっしゃるとおり。

(会 長) 単年度の目標設定であると、実績値がゼロの年は単純に達成率が 0 % の未達成となるので、累積の方が単年度の変化が考慮でき、なだらかな達成率を記載できると思うが、どうか。また、来年度の変更は可能か。

(事務局) 累計の記載が良いかとは思いますが K P I の見直しについては、次期改定時期にのみ修正可能となっている。

(会 長) せめて審議する参考資料として、累計を提示いただけないか。そうでなければ、事

業として評価しにくい。本当にこの事業でこの数値を達成できるものとして設定されているのであれば未達成でも良いが、ただその前に1回だけ67%があるので、この実績があるがゆえに評価が余計に難しくなっている。改定時期にならないとK P I が変更できないのは仕方がないが、来年度も評価しなければいけないので、そのためにも参考値として提示していただきたい。また、先ほども申し上げたが、交付金の項目についても事業として評価するために一覧に記載しておいていただきたい。

他に基本目標2について、意見はないか。

(意見無し)

(会 長) 未達成のところをみると、K P I 番号11は数値変動がしやすいものになっている。数値目標を累積にするなど計測方法の検討に加え、市民雇用者数が本当にこの事業で増加するのかということを考えることも重要ではないかと考える。基本目標2の全体の評価としては、未達成もあるが概ね事業としては達成に近いという評価として総括したいがいかか。

(異議無し)

それでは、続いて基本目標3「いつまでも健幸にすごせる環境を整える」について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 基本目標3「いつまでも健幸にすごせる環境を整える」の令和4年度の効果検証について、説明させていただく。この基本目標3においては、「健幸づくり事業の充実」をはじめ9項目のK P I、2項目の数値目標について定めており、そのうち、国の地方創生推進交付金の交付を受けた施策として、「健幸ポイント事業参加数」、「医療・介護給付費の抑制額」、「80～90歳代の健幸ポイント事業参加者数」、「健幸ポイント事業のボランティア数(健幸アンバサダー等の活躍人数)」の4つのK P I を定めている。また、この基本目標3のうち、K P I 番号18の「健幸づくり教室参加者数」については、コロナの影響により教室が休止した等による理由から低くなっており、K P I 番号25「自治会でのコミュニティカフェの開設・実施件数」については、コロナの影響により開設したものの前年度と比較すると増加傾向にはあるが年間を通じて実施することが困難だったため、目標達成までは届いていない。今回検証いただくK P I に関しては、9項目の内、3項目が目標を達成、5項目が未達成(内3項目が概ね達成)で、1項目が未実施等となっている。

(会 長) 基本目標3に関して、まずは永山委員より意見、質問をお願いします。

(永山委員) K P I 番号23について、福祉バスに関しては、多くの市民からバス停の増設要望を受けた。現在でもバス停は設置されていると思うが、高齢者にとっては、そのバス停まで足を運ぶことが困難な場合もある。市内のコンパクトな居住エリア内に

多くの鉄道駅があると言うが、それぞれが互いに利便性が高く連結してないために移動が困難になっていることが要因と考える。確認として、福祉バスの停留所の増設の検討を既に議会でも答弁しているが、現状の進捗状況はどうなっているか。

(事務局) 担当課としても、市民の方から多くの要望がある中で、福祉バスでどこまでの利便性を図ることができるかというのが、今後の目安だと考えている。それ以上のものについては、新たな高齢者の移動手段の施策の検討が必要だと考えている。

(永山委員) 市の福祉バスには限界があると思う。かといって、コミュニティバスでは採算が取れない。広域で対応することも検討の一つかと思う。タクシー事業者に聞いても、福祉バスの停留所まで行くことが困難な方は病院や買い物にタクシーを使用しているので、金銭的に余裕がある方はタクシーを使用するということも考え、検討が必要ではないか。

(会 長) この件は、都市計画審議会でも議論になるが、将来的には、都市計画のさまざまな計画、特に立地適正化計画等によるコンパクト+ネットワークのまちづくりを実現しようと思えば福祉バスでは難しい。福祉バスは利用者が限られているので、一般の方が利用できない。まちづくりを考えたときには、公共交通として福祉バスの在り方を議論する必要がある。当面は、高齢者対策としての福祉バスの使用は必須だが、さらに先を見ていくのであれば大きな観点で議論が必要と思う。

(永山委員) K P I 番号 2 4 番で対前年度比 2 0 0 % を越えているが、数字が倍になった要因はなにか。また、医療介護連携がうまくいっていると感じている専門職が 8 0 % いるとういことは、現実的に施設から戻られた方が在宅でうまく過ごされているということに直結しているという認識でよいか。

(事務局) 在宅医療介護連携については、介護保険制度ができてから一定介護と医療の連携は必須である。以前の取組としては、医療介護連携の相談室を設けることや、研修会を通じて情報を収集していた。その中で、令和 2 年、3 年の実績値は 4 0 % となっている。アンケート調査内の「高石市は医療機関との連携がしやすいと思いますか」という問いに対する回答の総数を分母とし、分子を「1. 大変そう思う 2. そう思う」と回答した数として算出している。前年度までは、「3. どちらともいえない」という回答が全体の 5 5 % を占めており、実体を把握しきれていなかったことから、令和 4 年度においては「3. どちらともいえない」の項目を削除し、「3. あまり思わない 4. 全く思わない」の 2 項目を合わせた 4 項目とした結果、倍の数値になったと考える。今後も、高齢化が進む中で、ニーズも変わってくるので、研修会等通じて状況把握をしていきたいと考えている。

(永山委員) 在宅医療になったとき、本当に大丈夫なのかというところが一番大事である。現在、医療機関が福祉施設を運営しながら、患者を抱え込んでいる状況にある。在宅医療になったとき、後ろ盾になってくれるのであれば問題はないと思う。実績が上

がったのは、アンケート項目を修正したからということだが、実態として高石市では在宅医療に関して大きな問題は抱えていないということで了解した。

(会 長) 集計方法を変更したことを個別評価シート等へ記載しておいていただきたい。他に意見はあるか。

(永山委員) K P I 番号 2 5 については、自治会を中心に開設していただいております、一定開設しきっていると思う。できないところをお願いしても限度があるので、N P O なども対象に含めることを検討していくとのことだが、多いに越したことはないが、多すぎても収拾がつかなくなるのではと思う。また、高石市は自治会が多いので、どこかのタイミングで統合を促しても良いのではないかと思います。

(会 長) コミュニティカフェについては、毎回議論があるが、開設だけでは意味がなく、使ってもらって、参加者数を目標数値とするのも一つなので、参考にいただければと思う。また、基本目標評価シートで K P I 番号 1 9 ～ 2 2 が別立てになっているが、先ほども意見したが、重複しても良いので、項目をすべて出してほしい。他に基本目標 3 について、意見はないか。

(意見無し)

(会 長) K P I 番号 1 8 については、コロナの影響もあるが、元々の目標値が高く、令和 2 年から参加者数も増加していることも踏まえ、前向きな評価をしてもよいと思う。基本目標 3 については、それぞれの事業で概ね達成しているということで、評価を総括したいがいかがか。

(異議無し)

次に、基本目標 4 「人が集い、住みたくなる環境を整える」について、事務局から説明をお願いする。

(事務局) 基本目標 4 「人が集い、住みたくなる環境を整える」の令和 4 年度の効果検証について、説明させていただく。基本目標 4 においては、「学力向上に向けた学びの推進」をはじめ 1 9 項目の K P I、2 項目の数値目標を定めており、そのうち、K P I 番号 3 1 の「高石シーサイドフェスティバルの来場者数」については、コロナの影響により事業自体が未実施となっている。K P I 番号 3 3 の「市内宿泊者数」については、令和 4 年 1 0 月より水際対策の緩和等により訪日客が増加し、概ね達成となったが、上半期については、コロナの影響によりインバウンド観光客の訪日がほとんどなかったことから、未達成となっている。K P I 番号 3 9 の「自転車用ヘルメット購入補助数」については、コロナの影響により周知活動に制限があったため、低い数値となっている。今回検証いただく K P I に関しては、1 9 項目の内 5 項目が目標を達成、1 1 項目が未達成（内 5 項目が概ね達成）で、3 項目が未実施等となっている。

(会 長) 基本目標 4 に関して、まずは西村委員よりお願いする。

(西村委員) K P I 番号 28 について、タブレット等の I C T がどれだけ活用されているかという指標として、クラスごとに週 15 時間以上の使用が設定されているが、学校ごとの活用状況はどのようにして確認しているのか。もう一つの指標として、学力学習調査での、I C T をほぼ毎日使用したかという児童生徒に対する質問に対する回答が指標となっていて達成率が非常に低い。これは、ほぼ毎日使用していないとイエスという答えにならないが、ほぼ毎日利用していないが、週 3 日以上は活用しているという割合が高いということか。いずれにしても、実際の授業活動において、もともとこの数値目標は高すぎないか。他市や先進事例などで実際にどれほど活用できているかの実践例はあるのか。

(事務局) 各学校の活用状況については、I C T 支援員が毎月の活用状況(ログイン回数)を調査し、把握している。「授業でどの程度使用しているか」という質問に対して、「ほぼ毎日活用している」という回答の割合を指標としており、ご指摘いただいた「週に 3 回以上」という回答は含めていない。先進事例については、近隣市を調査したが、公表していないので把握できていない。目標値については、令和 2 年度に G I G A スクール構想でタブレット整備をし、活用の目標値を設定したので、少し高い目標であったかとは思いますが、次回の改定時には検討が必要だと思っている。

(西村委員) タブレットの使用量もあるが、質の問題もあると思う。そういう意味では、個別最適化された学習方法もあるがいかかがか。

(事務局) 個別最適化については、デジタル教科書やデジタルドリルの活用で、家庭学習を含め、個別最適な学習ツールとして使用しているのが現状である。

(西村委員) 学校の授業で個別最適化されたものを使用するというよりは、家庭学習で個別最適化ツールの使用を進めているという理解でよいのか。

(事務局) 授業の中でも使用はしているが、家庭学習の方が利用率が高いため活用した。

(西村委員) 今後の目標の面では、量より質という観点も踏まえ、検討していただきたい。続いて、K P I 番号 30 の英語教育の推進に関して、中学校の英検 I B A 3 級レベルの合格者数割合についての目標自体はクリアしているが、実績値は去年より下がっている。小学校での外国語活動の成果については、中学 1 年生を対象とした英検 I B A になるかと思うが、その結果は、どのような実績になっているのか教えて欲しい。

(事務局) 令和 4 年度の英検 5 級相当の結果は、74.4%であった。

(西村委員) 4 分の 3 程の割合なので高いと思う。引き続き、高石の良いところとして、力をいれていっていただきたい。

(会 長) タブレットの使用が学習の質の面でどういう関係があるか。使用することで、どう教育効果を上げることができるのかの検討もしていく必要があると思う。小学校の英語教育については、高石の特色であれば事業としてあげるのも一つだと思

う。続いて玉置委員からの意見はあるか。

(事務局) 玉置委員からいただいている意見を紹介する。

5点あるため、1点ずつ紹介する。

1点目は、K P I 番号39の自転車用ヘルメットの購入補助について、目標を大きく下回っている状況下であり、支援対象を拡充したことについて、令和5年5月22日告示の周知以外に、現在、何か周知方法等を検討していれば教えていただきたい。2点目は、K P I 番号41の交通安全施設（自転車レーン）の延伸距離について、既に令和4年度で目標が達成されたとの内容となっていると理解するが、今後の事業計画において、令和5年度に更なる交通安全対策を実施していくとの記載があるが、第2期総合戦略の見直しを行うのか。今後の個別事業評価シートでどのような整理を考えているのか。3点目は、K P I 番号42の多様な災害や場面に応じた新たな訓練の種類（12種類）とあるが、訓練の種類はどういった方針（各地区における地域防災計画など）で決定されたものか。また、令和4年に実施した訓練11種類の内容と参加人数（自治数等）が過年度と比べてどう変化（増加・減少）しているのか分析をしていれば教えてほしい。4点目は、K P I 番号43について、令和3年に対し令和4年は実績値が減少しているが、その原因についてどう分析しているのか。5点目は、K P I 番号44で駅リノベーション事業のK P I が設定されていないが、その理由はなぜか。また第2期総合戦略の評価シートを今後、どう整理される予定か。

(会 長) いま、いただいた質問に対して、担当課から何かあるか。

(事務局) 1点目については、令和5年4月1日施行の改正道路交通法により、全年齢層に自転車用ヘルメット着用が努力義務になり、令和5年5月22日の告示に伴い、対象者の拡充を行い、申請件数が令和4年度に比べて大きく増加しており、7月末現在で目標値を上回っている。また、拡充した対象者の周知内容として、告示前に高石市内の各保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校へ対象者全員に周知のビラを配布し、周知に努めている。今後の周知方法については、毎月高石警察署と連携し、市内3施設ある高齢者福祉施設で高石市自転車安全運転講習会を実施しており、その際に周知を行い、交通安全運動時に啓発活動と並行してビラの配布等を行って市民に情報が周知できるように考えている。

2点目の交通安全対策については、引き続き実施していくが、本件を次期総合戦略の数値目標として設定するかについては、次期総合戦略策定の際に検討する予定である。

3点目について、訓練の種類の実績値は過年度からの累計である。本市では平成20年度より毎年展示型防災訓練を実施していたが、平成23年の東日本大震災を契機に、平成23年度から南海トラフ巨大地震による津波からの避難など大規模地震

災害を想定した全市民参加型の地震・津波総合避難訓練として実施している。この総合避難訓練では、毎年繰り返し実施している津波浸水想定区域における津波からの避難と津波浸水想定区域外における直下型地震を想定した避難訓練を基本に、新たな動きに合わせて創意工夫を加え実施している。令和4年11月1日に実施した昨年度の総合避難訓練では、消防団と自主防災組織との連携をテーマに例年取石小学校で実施の初期消火訓練を鴨公園でも初めて実施し、地域防災力の向上を図った。また両会場では、万が一災害が発生したときのための各家庭での備蓄の必要性や災害時に断水や建物の倒壊等によりトイレが使用できなくなる可能性があることから、災害用トイレの展示について啓発し、その他大阪府危機管理室と連携し、災害現場である高石市と大阪府との衛星車を用いた情報連絡訓練も新たに行った。令和4年度は雨の中の実施であったため、参加者数は8,989人と、令和3年度の9,407人より418人減少した。なお、地区防災計画については、市内の自治会に各自主防災組織が設けられており、現在、51団体中10団体において作成されており、各地区において独自の訓練等を実施されているが、地域主体での防災訓練等であるため、当該の数値には計上していない。

4点目について、毎年2月の入学説明会時にICタグの説明を行い、新1年生のほとんどの家庭が当日に申し込みをされているが、例年に比べ、昨年度は後日申込者の数が減少したため、全体の数も減少したと考えられる。

5点目について、駅周辺のまちづくりに関しては市の重要施策のひとつであり、子育て支援や健幸のまちづくり、商業活性化など多方面の事業効果が期待されている。そのため本事業の効果としては、駅周辺の路線価の上昇や市民満足度の向上など広範な指標に含まれた状態で効果が表れてくるものと考えている。そのため、単年度ごとに評価するKPIの設定には馴染まないと考えており、今後も個別評価シート内での進捗報告とさせていただきたい。現在の進捗状況としては、関係機関と高架下等の事業内容について鋭意協議を行っており、また市民の意向を踏まえた事業内容にする予定である。その内容が固まり次第、KPIを設定したいと考えている。

(会 長) 5点目の回答で、単年度のKPI設定は馴染まないということと、内容が固まり次第KPIの設定を考えるということが矛盾しているようにも思うが、今後進めていく内容はどのようなものか。

(事務局) 現在、計画を策定している中、KPIの設定が難しいと考えている。内容が固まってくるとどういった効果があるかということが見えてくるので、その時点でKPIを設定していきたいと考えている。

(会 長) 現在は計画の段階なので、具体的な評価ができないが、個別事業に落とし込めば、それぞれの評価ができ、KPIの設定ができるということで理解した。また1点目のヘルメットについては、事業拡充に伴い、予算も拡充していただいたことは良い

ことだが、誰もが平等に情報を得られるよう周知していただきたい。2点目の自転車レーンの延伸については、そもそも自転車レーンを増やせば、事故が減るのかという議論もある。今後、パーソナルモビリティなどでいろんな乗り物がでてくるので、どこを走らせるかが問題になってくる。自治体の中で交通安全を守るためにどうあるべきかを検討し、必要な道路整備があれば、できるだけ補助をもらい、整備していくことが必要だ。今後事業を進めていく際には、どこを整備するべきかをしっかり検討し、レーンの延伸を行っていただきたい。

他に何か意見はあるか。

(西村委員) K P I 番号 3 5 について、空き家バンクでの契約成立数については、民間売買なので変動が生じるということは理解しているが、登録数及び成立数については、どうか。

(事務局) 登録件数については、令和 4 年で 1 6 件登録の内、成約件数は 1 3 件となっている。

(西村委員) 累計登録件数 1 7 5 件に対して、売買成立は 1 3 8 件ということで、登録すれば高い確率で売却されている。今後は、登録数を増やしていただくためにも、周知に努めていただき、また、倒壊しそうな空き家なども活用していただきたい。

(会 長) K P I 番号 3 5 から 3 8 については、いかに周知していくかが課題になる。他に何か意見はあるか。

(永山委員) K P I 番号 3 1 について、今年久しぶりにシーサイドフェルティバルを開催することができ、良かったと思う。

K P I 番号 3 4 について、現在は基本目標 4 「人が集い、住みたくなる環境を整える」の項目に記載があるが、市長の考えでは、地域が稼ぎという事の拠点になるかと思うので、十分検討をしていただきたい。

(会 長) K P I 番号 2 6 の学力向上について、評価の仕方が難しく、科目だけだと 0 か 1 0 0 かになってしまうので、科目別平均点の対全国平均比 1 . 0 以上などの方が良いのではないかと思うので、検討をお願いします。他に意見はないか。

(意見無し)

基本目標 4 については、事業が多岐に渡り、未達成も少しあるが、住宅支援での未達成は、登録や申請をしてもらえれば達成に近づくので、事業の周知していくことが必要である。あとは基本的に概ね順調と評価される。先ほども意見した K P I 番号 2 6 の項目については、評価方法を検討し、他の項目も含めて学力を向上していくという仕組み作りをお願いします。多岐にわたる基本目標 4 については、未達成もあるが、全体的には順調に進んでいるおり、周知不足等で未達成の項目についてはもう少し P R に力を入れていただくというように総括してよろしいか。

(異議無し)

最後に、推進交付金の広域事業について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) K I X泉州ツーリズムビューロー事業の効果検証について、説明させていただく。

本事業の主な内容は、K I X泉州ツーリズムビューローへの参加であり、マーケティング調査結果を踏まえ、事業を展開することにより、観光客数及び地域内消費額の増加による地域経済の活性化を図っている。また、インバウンド客のニーズに応えるため、アンケート調査を含むマーケティング調査を継続的に実施している。K P Iとしては、全部で5項目あり、総合戦略と重複する「市内宿泊者数」、広域のK P Iとして「泉州の訪日旅行者数」、「泉州の来訪者満足度」、「泉州の延べ宿泊者数」、「泉州での一人当たりの旅行消費額」を設定している。

ただ、コロナの影響により、インバウンド客が激減したため、4項目は未達成となっており、「泉州の延べ宿泊者数」については、現在、大阪府にて集計中である。

(会 長) 各委員から、意見はないか。

そもそも、泉州全体の中の高石の位置づけが不明瞭であり、かつ高石が大部分を占めているわけではないので評価が難しい。泉州全体の課題としては、関空から直行で大阪や京都に行ってしまう、泉州にとどまることがあまりないことかと思う。大阪府が観光戦略として、泉州地域の活用を検討していかなければ、達成は難しい。一方で泉州に滞在する宿泊施設が多くあるかと言えばそうでもないことから、矛盾しているとも言える。観光戦略に合わせた施設整備や旅行業者とのタイアップなどを一体で行わなければならない。大阪府へ意見を伝え、連携して観光戦略を明確化してもらいたい。そうでないと未達成が多いので評価が難しい。コロナの影響が明けた令和5年度以降にはインバウンドの回復が見込めるので、達成に近づくと思うが、大阪府として、泉州地域の観光をどう考えるかという戦略を検討いただくよう要請してもらいたい。

(永山委員) 議会の中でも、K I X泉州ツーリズムビューローに対する議論がある。泉州地域の活性化のツールとしての一定の理解はあるが、コロナが明けてインバウンドが回復してきた時に、高石市に来てもらえる材料が少ない。行政ができることは限られているが、その中で名物や名所になるものを見つけていって欲しい。

(会 長) 今年度の評価としては、いずれもコロナの影響があり、評価が難しい状況である。来年度以降については、人の行き来が増えてくるので、今後の泉州地域観光の在り方や、高石の立ち位置を大阪府と連携して、その方向性を見いだしていただきたいということで総括してよろしいか。

(異議無し)

(会 長) 各目標の評価について総括させていただいたが、来年度に修正できるもの、あるいは次期改定時にしか変更できないものがあると思う。本日いただいた意見について、いずれに対応できるのか検討していただきたい。検討の方向性については、整理ができた時には各委員にお知らせいただきたい。また、冒頭にもあった大阪府の総合

戦略改定の情報についても、整理ができれば併せて各委員に情報提供していただきたい。最後に、各委員から意見や発言はあるか。

(なしの声あり)

(会 長) 以上で、本日の案件の審議については、終了する。

【午後 5 時閉会】